

令和7年度 東田中学校関係者評価 (校長「学校経営計画」における「重点目標と具体的方策」に対する評価)

*評価 5十分に達成できた/ 4概ね達成できた/ 3工夫改善の余地がある/ 2大幅な工夫改善が必要/ 1取り組めていない

経営目標	短期目標	具体的な方法	教員平均	学校関係者評価 コメント
1 確かな学力 生徒	1 生徒が主体的に学ぶ授業の実施 2 課題解決型の授業の実施	主体的、対話的で深い学びを実現するために、グループによる学び合い、授業や単元の振り返り等を行う。	4.13	<p>・これからの学校教育においては、一層主体的対話的で深い学びの充実が求められてきます。次期学習指導要領では「深い学びの実装」が重視されるようです。そういう視点で学校教育、特に「確かな学力」の育成について見てみると、学校は経営方針に明確に位置付け、各教員もそれぞれに工夫して取り組んでいることは、生徒や保護者の評価からも見て取ることができます。しかし、「東田中」としての統一したスタイルが形成されているかという点、まだまだ十分とは言えないように感じます。私は「深い学びの実装」とは、「探究的な学び」の充実と言うことではないかと考えています。その視点で学ぶべきは京都市立堀川高等学校の実践であると思います。全教科・領域を通じて深川スタイルを入学時から卒業まで徹底することで、生徒一人一人が自分にあった探究のスタイルを確立していくというものです。中学校でもできるものがいっぱいあります。是非、「主体的対話的で深い学び」の「東田中スタイル」を確立していただきたいと願っています。</p> <p>・話し合い活動が苦手な子もいるという話を聞いたが、機会が度々ある事で、苦手な子の練習にもなっていると感じられた。何人かの生徒から話を聞いてタブレットをよく活用できていると感心した。AIの使い方も健全で、AIの答えはもう一度ソースで確認して確かめるという事も日常的にできているようで適切に使えている様子だった。</p> <p>・家庭学習では23時にタブレットが使えなくなるのが不便だと声を良く聞く。実際その時間にも課題をしなければいけないことも多いとのことで、タブレットを使い込んでいる様子が素晴らしいと思う反面、もう少し子どもたちが使い勝手のよいようにならないかと感じた。</p> <p>・朝の学習を継続的に実施している学校は、成績が上がっている実績があるのでこの取り組みを継続して欲しい。</p> <p>・ICT機器の活用がとても充実している。また、勉強のサポートを行う、スタディールームの有難い。授業以外の英検、漢検のサポートも充実している。</p> <p>・生徒が先生に授業の内容や分からなかったことを自主的に聞きに行く姿をよく見かけた。先生も生徒一人一人に丁寧に対応していた。スタディールームの利用や英検・漢検など他校に比べると参加している生徒は多いと思う。図書室は司書さんの工夫がたくさん見られ生徒が集まりやすい環境だと思う。</p>
		話し合い活動を取り入れた課題解決型授業の実践。	4	
		ICT機器を活用した授業の推進。	4	
	3 基礎学力の定着と向上	後期にかけて定期テスト前補充学習、質問教室の充実（スタディールーム）を図る。	4.23	
		長期休業中のパワーアップ教室の実施（3日間）。	4.52	
		朝の時間を活用した朝学習や読書活動の充実。	4.77	
		学校司書との協働による学校図書館の利用の充実。	4	
	4 家庭学習の充実	教科説明会資料を活用した学習指導とアドバイス内容の充実。	3.73	
		タブレットの活用による家庭学習の推進。	3.86	
	5 検定、コンクールの活用、参加	英語、漢字検定等及び各コンクールへの参加の奨励。	4.4	
		検定試験前の対策教室の実施。	4.29	
		教科担当や部活動から、検定参加の積極的な働きかけ。	4.14	
2 豊かな心	1 生徒が主体となって力が発揮できる学年・学級経営	学校、学年行事を通して、学級でのよりよい人間関係の構築。	4.43	
		体験活動を通して、学級でのよりよい人間関係の構築	4.45	

経営目標	短期目標	具体的な方法	教員平均	学校関係者評価 コメント
		生徒会や委員会活動の活性化を図り、生徒の意見が反映され、生徒が主体となって学校を作り上げていく意識の醸成。	4.45	は文系進学が7割を超える現在の日本で、2040年代には文系人材は330万人以上求人数を超える（超氷河期を超える大卒の就職難）という恐ろしい予想がなされています。「エッセンシャルワーカー」こそが時代に必要人材であると考えます。ぜひ、一人一人が持つ「豊かな心」の実践の場を多様化し、一層豊かなものにするようご努力いただきたいと願っています。 ・東田中学校の生徒は行事への姿勢も意欲的で、発想力が高く、好奇心が旺盛だと感じる。それは日々の学校生活や指導で主体性を重んじられているからではないかと思う。
	2 道徳の時間の充実	「特別な教科道徳」における道徳授業の改善と内容の充実。	4.27	・「地域と共同して不登校生徒対応の充実を図る」の具体的な取り組みがあまりよくわからなかった。具体的にどんな取り組みがあるのか知りたい。
		授業を通して、人権意識向上と他者を思いやる心の育成。	4.09	・今年度実施した「命を大切にする講習」（SOSの出し方）は、中学生には大変効果的な話だと思う。今後も是非続けて欲しい。 ・「いじめ」については十分な対応が来ていると思う。
	3 教育相談活動の充実	地域と協働して不登校生徒対応の充実を図る。	3.95	・校内には生徒は皆礼儀正しく、きちんとした挨拶ができています。 ・校長の経営方針はその第一に「豊かな心」を位置付けている。合唱コンクール等の行事における生徒の直向きな向上心と協調性、日々の学校生活でのその明るい表情は、経営方針の着実な実践を証明するものであろう。保護者と協議会委員の懇話会では、「現校長の着任後、学校の雰囲気明るくなった」という声が複数聞かれた。「淡々と日常が過ぎていく」と校長は学校の様子を表現したが、それはもっとも難しいことであり、教師と生徒が良好な学校環境を作り上げている証に他ならないと思う。
		いじめ、不登校の出現率ゼロを目指した教職員による教育相談、個人面談等の実施。	4.45	・不登校生徒の別室対応の人手がもう少しあるとよい。 ・一つ一つの行事を通じて、どのクラスも先生と生徒、生徒同士の絆が強まっていくのが分かる。お互いを高め合ういい環境だと思う。SCの面談も生徒だけではなく、保護者も利用できるのが安心できる。
		1年生全員を対象としたSCによる面談の実施。	4.68	
		「なんでも相談アンケート」や「ふれあいトーク」による生徒の心の把握と相談の充実。	4.65	
	4 いじめ問題への対応	「学校いじめ防止基本方針」に基づく指導の徹底と学級担任による状況把握、学校での年3回の実態調査の実施。	4.68	
		校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消、解決。	4.57	
3 健康、体力	1 生徒の健康づくりと体力向上の推進。	保健体育や部活動指導における体幹運動、持久力向上の取り組み。	4.33	・10年ほど前に、全国の有名進学中高一貫校をレポートした本を読みました。それらの学校に共通しているのは、6年間を通じて最も重視する教育活動は「体力・精神力・気力」を徹底的に鍛える活動だということでした。昔も今も、健康・体力・精神力は絶対欠かせない人間の本質です。東田中スタイルを確立してください。
		養護教諭、栄養士を中心とした食に関する教育と食物アレルギー対応の充実。	4.7	・部活や競技会に参加するなど体力向上への取組はできている。 ・子どもの好き嫌いやアレルギー対応、食育などとても配慮されている。
		感染症予防についての指導の徹底を図る。	4.21	・毎日、分かりやすく興味が湧くようなメニュー表が配布され食に関心を持つ工夫がされている。食物アレルギーの対応も細心の注意をもって作られている。
4 安全指導	1 安全管理と事故防止の推進	様々な状況を想定した月1回の避難訓練等の実施。	4.7	・いつの時代も、危険はいつどのような形で出現するかは予測の外です。それゆえ、自分の安全は自分で守ることを徹底するしかありません。避難訓練、安全教育はマンネリ化が最も激しい教育活動です。常にグレードアップする教員集団の発想力が試されます。生徒保護者を巻き込んだ活動の充実を願います。
		実技教科の年間指導計画に沿った安全指導。	4.36	・日頃の訓練や地域との防災活動など適切に行われている。
		生徒会を中心に「SNS東田ルール」を作成させ、生徒への危機管理指導の実施。	3.96	・SNSのトラブル対応は学校に任せるのではなく、家庭と協力して取り組む必要がある。

*評価 5十分に達成できた/ 4概ね達成できた/ 3工夫改善の余地がある/ 2大幅な工夫改善が必要/ 1取り組めていない

経営目標	短期目標	具体的な方法	教員 平均	学校関係者評価 コメント
5 キャリア教育	1 キャリア教育の推進	発達段階に応じた学習活動の充実。	4.17	・生徒たちを待ち受けているのは上記の「豊かな心」のところ述べてとおりです。「超氷河期」世代の人々が異口同音に述懐しているのは、高校の先生も大学の教授も「お前たちの卒業後に就職はないぞ」という脅し文句だけで、どうすればよいかのアドバイス等は全くなかったというものです。自分の将来を明確にイメージできるキャリア教育の充実を願っています。
		キャリアパスポートの作成。	4.48	

経営目標	短期目標	具体的な方法	教員平均	学校関係者評価 コメント	
6 小中一貫教育	1 小中一貫教育校としての取り組みの充実	あらゆる場面で合理的かつ効果的な小中連携を模索し、生徒にとって義務教育9年間で系統的でよりスムーズに過ごせる環境作りを行う。	4.09	・生徒にとって小学校・中学校との相互交流は良い経験になると思う。また、今年度実施した3校合同会議は情報交換など大いに参考になった。今後発展させて欲しい。 ・東田祭も再開し小学校との交流も充実している。	
		小中一貫を意識したコミュニケーション力を高める生活指導の充実。	3.96		
2 教職員	1 資質向上	ICT機器の積極的な活用推進	4.3	・「確かな学力」でも述べたように、「東田中」スタイルの確立が教職員の資質向上に最も有効であると考えます。 ・先生方と懇談した雑感として、東田中は、ライフワークバランスがとりやすいとのことであった。部活動を外部委託していく傾向があることについては、先生方によって意見は区々であった（保護者も、賛成の方もいれば、否定的な見解の方もいた。）。 ・東田中学校は校長先生や副校長先生が理解があるので職場環境はとても良いのではないかと感じる。実際教職員の先生方と懇談会をしても満足度が高い話がたくさん聞けた。 ・現状を見ると教職員の働き方改革には一層の取組強化が必要と思う。	
		効果的な授業研究の実施。	4.22		
		相互授業参観とおした相互の指導力の向上。	4.39		
		2 服務事故の根絶	体罰や不適切な指導の根絶に向けた服務事故防止研修の3回実施。		4.79
			職員会議時に注意喚起を促す資料の提示。		4.71
			ヒヤリハット事例をもとにした校内体制の強化。		4.67
	2 組織力の向上	1 教職員同士の協力、支援体制の充実。	企画会議の充実による教育活動や学校行事等の組織的な対応と事案決定の流れに沿った起案。		4.58
			OJTや外部研修会を取り入れた若手教員の育成。		4.35
			ライフワークバランスを考えた会議等のスリム化。		4.42
			働き方改革への取り組みについて教職員意識改革と課題改善。		4.17
3 特別支援教育	1 特別支援教育の理解と支援の充実	特別な支援を要する生徒への合理的配慮に基づく支援の充実。	4.22		
		SC、SSW、特別支援教育課との協働による支援の充実。	4.43		
		毎週の校内委員会にて情報交換による支援方法の共有化。	4.63		
		生徒が集中して授業に取り組めるユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備。	4		
3 家庭、地域	1 信頼される学校づくり	生徒会を中心とした地域行事への参加率の増加。	4.09	・保護者の方と懇談した雑感として、学校から定期的にお知らせをもらうことで、学内の様子が伝わってきて安心するとのことであった（ただ、全部をきちんと読むのはなかなか難しいとの感想も見受けられた。）。 ・CSとの協力体制は出来てはいるが、まだ発展する余地があると思う。 ・先生・生徒・保護者との懇談会を年1回行い情報共有ができています。学校支援本部とCSが一緒になって活動していきたい。	
		学校運営協議会、学校支援本部、PTA等との有機的な組織を編成し協働体制の構築。	4.26		
		学校だより、学年だより、ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化。	4.38		
	2 安全管理と事故防止の推進	地域の活動に積極的に参加・協力し、活動をおして社会の一員であることの自覚と社会力の育成。	4.09		
		積極的な地域資源・人材等の活用を行い連携の強化を図る。	4.32		
		・地域行事への参加は子どもたちの社会性を大いに育む活動だと思うのでこれからも子どもたちが地域で活躍できる機会を増やしていただきたい。 ・地域のことを理解するためにも、小中学生の頃から地域の活動に参加することには賛成です。この経験により成人してからスムーズに地域社会に入りやすと思います。 ・ t e t o r u を活用し保護者に子どもの様子が発信されている。			